

2018～2019 職員部会ニュース

平成30年度8・9月
東京都公民館連絡協議会

発行：東京都公民館連絡協議会

会長：福生市

職員部会長：小平市 武井 豊

日時：原則毎月第3水曜日

会場：小平市中央公民館

メンバー：日野市（佐藤・大和田）

国分寺市（南波）・国立市（松田）

西東京市（三城）・福生市（松浦）

狛江市（内田）・東大和市（宮鍋）

昭島市（梶芳）・町田市（矢嶋）

小金井市（小磯）・小平市（寺本）

職員部会報告

8月は職員部会定例会休み、9月は研修会を実施。

研修会終了後、「第55回東京都公民館大会研究大会 課題別集会」の再検討

1 研修会報告

9月19日（水）に、職員部会主催の研修会を開催。「公民館職員としての利用者との関わり方」をテーマに、井口啓太郎氏（国立市職員・文部科学省生涯学習政策局派遣）を講師としてお招きしました。まず、研修が企画された意図やなぜ皆さんがこの研修に参加したのかを共有し、「利用者」という言葉の持つ限定性と「非利用者」の想像、「利用者」の解釈についてのお話を伺いました。また、市民を興味・関心により7つの層に分けて捉え、公民館に来てもらうためにアプローチすべきターゲットを具体的に考えることとして、グループワークを実施しました。グループワークでは、若者をどう取り込んでいくかを話し合いました。

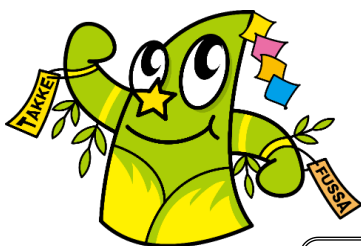
2時間が大変短く感じられるような、充実した研修となりました。

2 協議事項（課題別集会のテーマ、討議内容について再検討）

テーマは「市民と職員の相互作用を考える」に変更。討議内容には、「進め方」を記載し、事前に提案のあった文章を基に再度事務局でまとめることになった。

今回も引き続き、職員コラム担当市のキャラクターを紹介します☆

福生市の『たっけー☆☆』です。毎年40万人の来場者で賑わう福生七夕まつりのイメージキャラクターとして誕生し、市の公式キャラクターになりました。



©シンエイ/西東京市

西東京市マスコットキャラクター「いこいな」です。自然と生き物のふれあいを守る森の妖精です。帽子の花は「ハンカチの木」です。

松林分館 “だれでもなんでも展” について

福生市公民館松林分館 松浦 裕人

福生市公民館松林分館では、10月に“だれでもなんでも展”という地域のミニ文化祭を開催しています。公民館のお祭りですが、参加者の方々の意思により“公民館まつり”や“松林まつり”といった名称は用いていません。

“だれでもなんでも展”は、昭和55年に松林分館で毎年開催するイベントの準備会を立ち上げるにあたり、「だれでも、どなたでも、なんでもいいのです」を趣旨として掲げ、“展”の意味に「手作り、下駄履きで（気軽に）参加できること」「あたたかさがあること」「お師匠さんの発表会にならぬことで、



『個人』で参加できること」「日常の活動がみられ、分館の活動がわかること」の性格を持たせるところからスタートしました。

それから毎年開催を重ねることで、「地域で行われている文化的な営みを掘り起こして繋げていくこと、その役割を利用者と地域の人々が担っていくこと、サークルや地域のグループの活動・松林分館の活動を地域に広げていくこと」という“だれでもなんでも展”のコンセプトがまとまってきました。

作品の展示・演技の発表・模擬店の運営は、公民館登録サークルは勿論、個人・団体を問わず参加を受け入れ、「公民館のまつり」に留まらない交流と活動の場にしていきたいという気持ちが、現在まで続いています。

今年度は39回目の開催となり、10月13日

（土）・14日（日）に、展示部門37・演示（発表）部門17・模擬店部門5の個人・団体が参加する他、様々な方が各部門のお手伝いに携わっています。3部門以外にも、参加者の方々が自ら講師を務める体験教室として、バルーン教室、俳句体験教室、草笛教室などが行われる他、子ども遊び教室としてホットケーキ作りに挑戦するコーナーもあります。

最近では、近隣の児童館から模擬店にやってくる子どもたちも増え、新たなサークル・団体の参加もありました。これからも“だれでもなんでも展”が地域の交流のきっかけとなり、活動を広める場所として続いていくことを願います。

（写真は平成29年度 第38回だれでもなんでも展）



「平成 30 年度 農業を知る講座」

西東京市谷戸公民館 三城 明子

6 月 26 日今年も「農業を知る講座」が始まりました。

この講座は、平成 6 年旧保谷市住吉公民館(現在は保谷駅前公民館に移管)で始まりました。発足当初は播種、収穫の一部作業を体験する講座でしたが、現在では 6 月末から翌年 3 月まで週一回、地元農家の方を講師に招き、農地を借りて本格的に農作業を体験する講座になりました。

申し込み数は 47 名（初めての方は 22 名）。70 代が 22 名と約半数をしめています。作業は 4 班に分かれ、講座から立ち上がった農業サークルに所属する参加者（リーダー、サブリーダー）を中心に行われます。7 月は前年度の参加者が植えてくれたジャガ芋の収穫から始まり、これまで大豆、ニンジン、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、白菜、大根の播種、定植を行いました。畝間、株間は棒や拳、指などできっちりとし、マルチビニールや寒冷紗を張るなど本格的。「1 本の雑草も許さない」という講師の姿勢に、農業の厳しさが伺えます。

講座の特徴として「農業を知る」というタイトルの通り単に野菜作りの基礎を学ぶということではなく環境や経済、食育、健康をテーマにした講義を行い、都市農業の現状を知り、農地を守る意味を考えます。また、年に 1 回都市近郊の農業や食育に関する場所、施設で視察研修を行ないます。今年度は 11 月に農業総合センター（茨城県笠間市）へ行きます。

今年の夏は、猛暑、大雨等天候不順でしたが、「仲間との作業は楽しい」「家にこもりがちだったが張り合いができた」との参加者の言葉に支えられ講座を行っています。

年末には、薬剤師の漢方、お屠蘇の講義、講師宅での餅つき、年が明けて菜種による搾油実習を予定しています。3 月には講座の振り返りとして記録集を作り、翌年の参加者の為にみんなでジャガ芋を植えて、1 年間が終わります。



公民館配属になって、このような大型講座の担当になりプレッシャーでしたが、今は毎週参加者の皆さんに会えるのが楽しみです。パワーのある皆さんと今後何ができるか考えることが大きな課題です。今年のテーマは「市民と職員の相互作用を考える」。自分なりの一步を見つけないです。皆さんこれからもよろしくお願いします。